三条別院のご案内

真宗大谷派三条別院
TEL：0256-33-0007
E-mail：sanjobetsuin@wing.ocn.ne.jp

三条別院に想う

▲今回は、毎年雑巾講（記事参照）で縫った雑巾を別院のために寄付していただいている第十九組改觀寺御住職から執筆していただきました。

三条別院に初めてお伺いしたのは平成十一年得度考査の時であったように思う。

自坊で練習し意気揚々（？）と乗り込んでいったものの、撥の扱いを教えてもらっておらず打磬直後に撥を磬におさめてしまうという失態を犯したにも関わらず、無事お墨付きをいただいた。その後は、児連や青少年の活動でお邪魔することが多くなったが何よりも印象的なのは数多くの災害対策であったように思う。

始まりは平成十六年七月十三日に発生した、新潟・福島豪雨による災害対応だった。各地から参集したボランティアの方々が三条別院を基地として対応にあたり、私自身も掃除や片づけに参加させてもらった。

同年十月二十三日に起きたのが中越地震であった。

対応初期にボランティア受け入れや、支援物資の貯蔵仕分け、会議等に三条別院を活用させていただいた。

朝早くに三条別院へ集合、長岡での中継基地となっていた願興寺様まで交通規制により数時間の道程、そこから各被災地でのボランティア活動、別院に戻る頃には日はとっぷりと暮れているなんてことが幾度となくあった。

その後には、平成十九年七月十六日中越沖での震災、中越地震での対応が未だ続いている中での中越沖地震は自然災害に対抗する我々の無力さをまざまざと見せつけてくれたが、その時も別院は私達を支え続けてくれた。

続いた災害の余韻も過ぎ去った頃に起こったのが平成二十三年三月十一日の東日本大震災であった。

福島原発事故によって太平洋側のルートが分断されたため、再び三条別院が支援物資輸送やボランティアの中継基地として活用された。

私自身は、この時仏青有志の会の会計担当であったため、残念ながら現地での活動ではなく、後方支援として支援物資の購入や確保にホームセンター巡りをしては、別院に物資を届ける日々を悶々と過ごしていたが、各地での支援から戻ってきた青少年活動の仲間から現地の情報をもらい、後方支援の大切さを身にしみて感じることができた。

幾度もの災害の度、三条別院は本堂を含め宗教施設というより倉庫のようなあり様となっていたが、その姿は本来の輝きを失うどころか、その輝きは普段にもまして弥陀の摂取不捨の光に満ちていたように思えてならなかった。

苦しむ人には手を差し伸べる存在が必ず現れるということ、それを支える教えがあるということ、これからもその灯は決して絶やしてはならない。その拠り所として三条別院があり続けていられるよう、微力ながら尽力していければと思う。

合掌

東護 琢史 氏（第十九組　改觀寺住職）

【ぞうきん講では毎年、住職の歌も披露される】

○次回の「三条別院に想う」は、
草間 朋哉 氏（第十二組勝覚寺）
よりご執筆いただきます。

▲次回は五月二十一日に開催された音楽イベントTERAJAMの事務局の草間氏に執筆いただきます。

三条別院公開講座

◆期日　六月十二日（月）
◆時間　午後六時三〇分～午後九時
　講義一二〇分、質疑応答あり
◆講師　中島 岳志 氏
　（東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院）
◆講題「日本政治はどこへ向かっているのか」

開催直前！！

中島氏が三条別院に！

「昨年の安倍元首相銃撃事件に続き、岸田首相への爆弾投下事件が起こりました。今後もテロの連鎖が続くと、これを抑え込むための治安維持権力の拡大が懸念されます。私たちはいかにして自由を保持していくべきか。社会に自主規制が蔓延しないためにはどうすればいいのか。岐路に立たされた日本社会のあり方を政治の側面から考えたいと思います。」（講師より）

『テロルの原点―安田善次郎暗殺事件―』（『朝日平吾の鬱屈』改題）『血盟団事件』等の著作に代表されるように、戦前の政治テロも研究対象であり、『親鸞と日本主義』のように仏教、浄土真宗にも造詣が深い講師に、混迷する日本政治についてお話しいただきます。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年慶讃定例法話会

毎月十三日の蘭如上人のご命日の定例法話会を宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃お待ち受け事業として昨年より継続しております。

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

◆六月の講師
　藤場 芳子 氏（金沢教区常讃寺）

慶讃お待ち受け事業としては最終回です。

【講師の藤場氏】

◆日　時　六月十三日（火）
　午後一時三十分より
　午後四時三十分（勤行、座談あり）

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に「御命日のつどい」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げております。

なお、前日（二十七日）はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◆日　時　六月二十八日（水）午前十時より
◆会　場　三条別院 本堂
◆お勤め（御命日　日中法要）
文類偈　行四句目下
念仏讃　淘五
　和　讃　回口　次第六首
　回　向　願以此功徳

◎今月の法話講師
六月　朝倉　奏　氏（第二十組金蘭寺）

▲これまで『御文』五帖目をテーマとしておりましたが、五月からは一帖目となりました。講師より一通ずつ選んでお話しいただいております。

◆今後の講師一覧

七月　大久保 州　氏（佐渡組廣永寺）
八月　佐々木 惠一郎氏（第十組行通寺）
九月　本多 智之 氏（第十八組永傳寺）
十月　八田裕治氏・八田摩矢子氏（第十七組淨福寺）
十一月　田村 大輔 氏（第二十組專念寺）
十二月　橘 出 氏（第十八組久唱寺）

初歩の篆刻教室報告

三条別院では書道教室の生徒を募集しており、宣伝を兼ねてイベント的な行事を開催しています。今回の「初歩の篆刻（てんこく）教室」は一昨年好評であったため、第二回を開催しました。

印鑑が不必要だという時代の風潮ですが、蔵書印として使ったり、手紙に付け加えたり、意外と実用的に使えるものです。

講師の木原光威先生から、①石の表面をやすりで削り朱墨を塗る②文字を決める③篆書体を辞書で調べる④薄い半紙に印の大きさで書く⑤裏返して黒墨汁で書く⑥ひたすら彫る、という手順を教えていただきました。⑤までが難しく実際に彫るのはもう作業だけだと先生が鼓舞され、作業は楽しく参加者からは歓声が沸いていました。

【当日に彫られた作品】

午前は七名、午後は十六名の参加者がありました。篆刻も書道の大事な一部ということです。皆さんもぜひ書道教室に参加しませんか？

三条別院書道教室　東友会
毎月第二第四水曜日　午後６時半～８時
講師　木原光威氏（新潟県書道協会理事）
月謝　３２００円
初心者から有段者まで、子どもから大人まで、優しく指導していただけます。

雑巾講報告

五月十五日、第十九組改觀寺様にて雑巾講が催され、別院職員（松浦）も参加させていただきました。ここで縫っていただいた雑巾は、三条別院に寄付贈呈していただいています。コロナ禍のため、毎年恒例の催しが一時中断を余儀なくされていましたが、久しぶりに雑巾作り、二胡の演奏・ご住職の歌（巻頭写真）、讃岐うどんの食事会（ゆでるお手伝いもしました）と楽しい時間を共に過ごさせていただきました。

庭講報告

五月十三日、第十七組門徒会の皆様に庭講へご参加いただき、除草、落ち葉掃き、殺虫作業を行いました。この日は気温と天候共に最適な日で、動くと少し汗ばむが暑すぎず、かといって汗で体が冷えるということもなく、とてもいい作業日よりでした。お昼には、三条の料亭「魚長」のお弁当をいただき、とてもまったりとした時間を過ごしました。皆様も、お気軽にご参加ください。

【第17組門徒会の皆さんと庭講員で書院の前で記念撮影】

フードバンクを継続中

―五月の別院でのフードドライブにご協力いただいた御寺院・御門徒―

佐渡組專得寺

その他、匿名含め多くの方々にご協力いただき御礼申し上げます。次回引き取り予定日は六月二十四日（土）です。

その他の講座案内

○別院声明教室

夜の部（午後六時～八時）

講師　長田 淨見 氏（第十六組善圓寺）

昼の部（午後三時～五時）

講師　別院列座

開催日　二月十四日（火）（済）

三月六日（月）（済）・四月十日（月）（済）

五月二十三日（火）（済）・六月五日（月）（全五回）

随時募集中

○有志の会庭講［毎月十三日］

ご一緒に別院のお庭を整備していきませんか？

毎月十時から、午後は定例法話を聴聞します。

お気軽にご参加ください。

○有志の会花講

花講は別院の立花を、有志の会は別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊（絵像）をお迎えして、聞法会を開催しませんか？

○別院奉仕研修について

半日の奉仕研修等にも対応しております。

【奉仕研修冥加金】

一人あたり半日（午前または午後）五百円、一日千円

一泊二日は上記の冥加金に順じて半日五百円で計算する。

【その他実費でいただくもの】

①講師謝礼。なお、列座によるお内仏のお給仕・法話は研修冥加金に含まれる。②シーツ等クリーニング代千円

③食事代　ご要望等ございましたらご相談承ります。

◆◆編集後記◆◆

本年三月二十五日から四月二十九日まで、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要が本山においてお勤まりになった。私も初めて参衆加勢として、五十年に一度の法要に関われたことは勉強になったし、いい思い出になった。

今回の慶讃法要では、全国の教区や組からたくさんの方々が団体参拝で上山されていた。三条教区からもたくさんの参拝があり、顔見知りの方を見つけると「あれ、ここ京都だよな」と不思議な感覚に陥ってしまった。それはともかく、ご参拝された皆様、ようこそのお参りでございました。

法要の加勢が無事に終わって十一日後、今度は本山で行われた子どものつどいのスタッフと、中央声明講習会を受講するために再び上山した。子どものつどいでは、慶讃法要の時とはまた違う雰囲気で、御影堂も満堂になる盛況ぶりだったのが印象に残った。また、加勢のときに知り合った式務員や他の別院の列座にも再会し、「久しぶり（笑）」などと挨拶を交わした。この時は計十四日間京都に滞在したのだが、そこでもまた新しいであいがあり、「来年また中央声明で会いましょう」と挨拶をして帰路についた。来月、新教区が発足するが、本山・別院といった聞法の道場、であいの場というのは、教区の名称や体制がいくら変わろうが、私たちの先達が大切にしてきた「場」はそう簡単になくならないのではないか。本山でのであいを通じて、そう感じた。

（小原）